

環境施策年次報告書(平成22年度)

環境目標1 富士・箱根・愛鷹の自然の恵みとふれあうまち

1-1 生きもののすみかの保全

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
1-1-1 自然の河川の流れを守ろう	生物や景観に配慮した河川の整備	市内を流れる普通河川・準用河川に自然素材を利用して生態系を保全し又、景観に配慮した整備をおこなってきたい。しかし、自然石等にて整備する範囲は経済性及び物理性から限定される。自然素材としては、巨石積み・雑割石および生態系ブロック等がある。 ①生態系ブロック工 L=74m A=395㎡ 生物に配慮した護岸整備延長 2.74km(平成22年度)	建設課
	河川の適正管理	裾野市コミュニティづくり推進協議会の事業として、地域の環境問題を重要視し、環境美化活動を推進している。その一つとして毎年、春と夏に各地区において、環境美化活動(河川道路等一斉清掃)を実施している。 同じ地域に住む方々がいっせいにすることにより、大きな効果をあげているとともに、児童・生徒等が参加することにより、家族や地域の方々と交流を深める場となっている。 (平成22年度実績 25,565人)	地域振興課
		市内河川一斉清掃時を除く地区住民の率先した清掃に対して、使用する機械の使用料(借り上げ料)を補助している。 H18実績 1地区 32,025円 H19実績 1地区 32,025円 H20実績 2地区 64,050円 H21実績 1地区 32,445円 H22実績 1地区 32,235円	建設管理課
1-1-2 農地の活性化をはかろう	農地の保全と有効活用	静岡県管理となっている一級河川については、河川愛護月間(7月)に静岡県土木事務所と合同で河川パトロールを行っている。 準用河川などの裾野市管理河川については、要望調査や苦情の確認の際に併せて点検を行っている。 警報等の発生時は、河川の巡回パトロールを行う。	
		農業の担い手としての認定農業者を下記により育成している ①認定農業者で組織されている認定農業者協議会へ補助金を交付し、認定農業者の組織的な活動を通し生産性の向上のための事業を行った。(認定農業者数16人) ②認定農業者を育成するため、裾野市担い手育成総合支援協議会が営農支援・耕作放棄地対策・助言等を行った。	農林振興課
		・地産地消を推進 生産組織の集合体である中核農業者協議会を通じ、補助金を交付し生産活動を活発化させている。(平成22年度実績 380万円) 地産地消関係では、ふれあい市の生産者組織である直販部会へ補助し、地産地消を推進している。 ・農地の利用集積 遊休農地を利用集積することにより、農地の活用及び有効活用を実施している。	
		富士見農園・城址農園とも19年度で廃止した。 現在は、特定農地貸付法や、農園利用方式による農業者主体の開設を促している。 NPO法人「手をつなぐ親の会」による「ふれあいみどり農園」の開設(平成22年度)	
	農作物の食害被害を防止するため、有害鳥獣パトロール及び有害鳥獣捕獲を実施している。 有害鳥獣パトロール 有害鳥獣捕獲実績(捕獲期間の最終日が22年度内にあるもので集計) 申請件数40件 捕獲数 ニホンジカ103頭、イノシシ16頭、サル2頭、ドバト103羽 担当職員のわな免許取得 噛み付きザルへの対応(平成22年度、裾野市野猿危機管理対策本部設置)		
生物に配慮した農地の整備・管理	平成22年度の農業用水路整備箇所に、多自然型ブロック等を実施した。 ①多自然型ブロック積工 L=36m A=54㎡	建設課	
	南駿農業協同組合に補助し、残留農薬と土壌分析を実施している。また、茶生産者の減農薬栽培を推進している。 国の補助事業である農地・水・環境保全向上対策事業として「深良地区美しい水と緑保全の会」が、メダカ、カワニナの放流や湧水地の整備、ホテルの生息状況の確認等を実施している。補助率は国費1/2、県費1/4、市費1/4。	農林振興課	

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
1-1-3 豊かな森を創造しよう	森林の適正管理	豊かな森を育むためには、定期的な森林管理が不可欠である。このため林道・作業道の路網整備を実施することにより森林の適正管理に寄与している。 ①市単独林道事業 8路線 L=775m ②県単独林道 3路線 L=746m	建設課
		・毎年200haを目標に間伐実施を行っている。 133.5ha/年(平成22年度) ・国の林業政策が、今後10年以内に国内林業の基盤づくりと需要拡大により木材自給率を50%以上とする「森林・林業再生プラン」を作成し、搬出を基本とした間伐事業に変わってきていることから、市でも計画の策定が必要となっており、間伐についても切り捨て間伐から利用間伐へシフトしていく必要がある。	農林振興課
		・県の補助事業を利用しながら、林道葛山線の延長改良工事を施工中。 ・随時、林道の改修および補修工事を行っている。	
1-1-3 豊かな森を創造しよう	森林の保全	・森林法の改正に基づき、現在、裾野市森林整備計画の改正作業中(平成23年度中に策定予定)。	農林振興課
	土砂流出の防備	治山対策事業として平成19年9月7日の台風9号による災害に基づく、県営復旧治山事業および県営奥地保安林保全治山事業を実施している。 ・深良地先(H20～着工中) ・公文名地先(H21～着工中) ・茶畑地先①(H21～着工中) ・茶畑地先②(H21測量、H22～着工予定) ・茶畑地先③(H21測量、H22～着工予定)	建設課
		県補助事業を利用しながら、毎年、間伐材による土砂流出防止柵を、4m×0.5Hで500箇所を目途に設置している。(平成22年度実績 444基/年)	農林振興課
1-1-4 計画的な土地利用を推進しよう	計画的な土地利用	平成16年度に深良、富岡、須山の3地区について、既存集落としてのあり方の方向性を調査し、平成18年4月に指定大規模既存集落制度の区域指定がされた。制度利用で土地利用を図るためには集落内の整備が有効になることから、地元の整備志向の立ち上がりによって、整備方針の検討を進めることが期待されるが予定はない。	都市計画課
		・裾野市農業振興地域整備計画の作成(平成22年度、定期変更済み)、農業振興地域事前協議による指導、農業振興地域整備促進協議会の意見聴取による計画的土地利用指導を行い優良農地の保全を図っている。 ・裾野市森林整備計画を作成し、計画的土地利用を推進している。	農林振興課
		①定期的な農地パトロールの実施 ②違反転用者に対する指導 等を行った。	

1-2 生きものの保全・ふれあいの推進

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
1-2-1 動植物を保全しよう	貴重な動植物の保全	1. 富士山資料館敷地内及び周辺に育っている植物について観察し、希少植物などその育成状況を調査するとともに、植物の育成状況などについての写真を市民に紹介した。 2. 富士山資料館敷地内及周辺に育っている常時見られる植物や希少植物について、環境を整備するなどして保護を進めた。	富士山資料館
		アシタカツツジ原生群落の保全管理として、開花時期(5月中旬～6月中旬頃)を目処に、遊歩道の清掃、下刈りなどを行っている。また、開花期間中の土曜日、日曜日は多くの見物客で賑わうため、駐車場整理等を行っている。	商工観光課
	野生生物の適正管理	静岡県県の事業として、県猟友会等を通じて県内各所でキジの放鳥を実施している。 平成21年度の市内での放鳥はなかったが、平成22年度は市内でも放鳥を実施した。	農林振興課

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
1-2-2 自然を学び伝えよう	自然環境の調査・学習・体験	<ul style="list-style-type: none"> ・市民を対象とした春、夏の自然探索会を継続的に実施し、富士山に生息している野鳥、動植物等の学習会を開催した。また、資料館を訪れた方々を中心に植物実験講座を開催し、植物の葉・花などの特徴を講師による解説も含め学習している。 ・小・中学生に富士山資料館周辺の自然や「十里木氷穴」などの洞窟についての解説を行った。 	富士山資料館
		<p>自然案内図の製作については、実施実績なし。 エコツアーについては、調査協力等の申し出は無かった。</p>	商工観光課
1-2-2 自然を学び伝えよう	自然環境の調査・学習・体験	<ul style="list-style-type: none"> ・河川の汚濁が進み、水辺に親しむ機会が少なくなっている今日、河川への関心が薄れつつある。そこで、夏休みの研究等河川に生息する水生生物を親子で観察し、水質調査を体験しながら水環境保全意識の啓発を図る。 親子水生生物調査 年1回(8月7日(土)黄瀬川 大畑橋下で実施。) 参加人数27名(平成22年度) 	環境防災課
		<p>富士山の自然と環境を守る会を4市1町で組織しており、年1回総会、幹事会3回、研修会1回にて情報交換を行った。</p>	
1-2-2 自然を学び伝えよう	自然とのふれあい活動の場の整備	<ol style="list-style-type: none"> 1. 資料館常設展示に富士山や愛鷹山などの自然系資料の充実をはかるため資料並びに情報の収集を行った。 2. 資料館展示室に展示している岩石標本など、手で触れる、虫めがねで観察するなどの体験コーナーを設けている。さらに、職員による展示解説を実施した。 3. 資料館講座での自然探索会では、西臼塚周遊コースや水ヶ塚-須山胎内コース、御殿場口太郎坊-幕岩、ニツ塚コースなどのコースを探索することで、講師からの自然解説や個人の五感を使った自然体験を実施している。また、小・中学校が実施するフィールドワークへ協力した。 	富士山資料館
		<p>自然林を活用した自然とのふれあい活動は、小学校・中学校で行っている。自然に触れる野外活動(自然教室)を行っている学校もある。</p>	学校教育課
		<p>水ヶ塚遊歩道、黒岳・越前岳遊歩道、富士山須山登山歩道等の整備を行っている。 平成20年度から3ヶ年で富士山遊歩道の整備工事を行い、アシタカツツジ等の植栽等を行っている。 平成21年度はテーブル付きベンチを5基、ベンチを3基設置した。 平成22年度はテーブル付きベンチを2基、ベンチを1基、遊歩道案内板を1基、富士山ビューポイント案内板を2基設置した。</p>	商工観光課

環境目標2 水と緑を大切に 身近な歴史を生かしたまち

2-1 環境美化の推進

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
2-1-1 景観を守ろう	景観意識の啓発	裾野の美しい自然景観については、富士山を中心とした市内各所の写真や説明が観光パンフレット等に紹介されており、キャンペーン等でパンフレットを配布している。 富士山をいつまでも美しくする会や富士山自然保護関係会議に出席している。 なお、景観スポットの調査については実施に至っていない。	商工観光課
		1. 富士山やその周辺で見られる特徴ある自然や天然記念物、景観を紹介した。 2. 自然の中に多くの人や動物たちが入ることで、ごみの投棄や踏み荒らしがいかにより自然を壊しているかを伝えた。	富士山資料館
	休耕農地の景観対策	市内の農家に対して、景観作物の作成を推奨している (平成22年度 景観作物作付面積 15,000㎡)。 ・農業委員による地元農業者に対する景観作物作成の啓発及び耕作放棄地への景観作物の植え付け。 ・景観作物の研究として、市民協働によるパノラマロードの耕作放棄地に景観作物の試験的植付を実施(「裾野市パノラマロードを花でいっぱいにする会」の設立支援および、活動支援を実施。平成22年度はマリーゴールド、菜の花等を栽培した。)	農林振興課
	富士山の景観対策	美しい富士山が見える場所マップについては、「裾野観光マップ」の中に数箇所ポイントが記載されている。また、新しく作成した観光パンフレットに新たに富士山ビューポイントのコナーを追加した。 1. 富士山の成り立ちや自然の特徴をわかりやすく紹介している。また、富士山世界文化遺産登録にむけて、裾野市として富士山世界文化遺産としての特徴を持っている須山浅間神社と須山口登山道、登山道に係わりのある御師家などを広く紹介するための調査やイベントを実施している。	商工観光課 富士山資料館
2-1-2 都市景観を創ろう	景観計画・規制・協定等	・静岡県屋外広告物条例により屋外広告物の規制が図られ、屋外広告物の許可事務を行っている。(22年度取扱い件数114件) ・景観形成基本計画策定に関する検討を平成20年度から着手し、景観行政団体へ平成22年5月に移行した。 ・平成22年度より、景観形成基本計画、景観計画の策定、景観条例の制定に向けての作業に着手した。 ・佐野茶畑線の街路整備では、JR御殿場線を跨線する橋梁区間があり、アプローチ区間を含めて電線を地中化とした。 ・平成22年度より、裾野駅西土地区画整理事業で電線地中化の工事に着手した。	都市計画課
		駅西区画整理事業の区域内、平松新道線、裾野停車場線、桃園平松線、駅前広場の電線類(L=2.2km)の地中化を、静岡県無電柱化推進計画に基づき、電線管理者・道路管理者と調整のうえ実施する。 駅西プロムナード線、駅前広場、小柄沢線は樹木等の緑化推進を行う。 小柄沢川、三間堀川においては、環境・修景に配慮し整備を行う。 平成18年度に静岡県無電柱化推進計画(第5期)の計画区間(合意区間)として承認された平松新道線(県道三島裾野線)の50m区間の電線共同溝工事を23年度に実施予定。平成22年度には静岡県無電柱化推進計画(第6期)において平松新道線の残区間L=380mの承認が得られた。 平成23年度には、承認された区間の実施設計を行うと共に、計画区間全体の承認を目指す。	区画整理課
	市民による景観保全の推進	・土地区画整理事業による街づくり事業が進められている裾野駅西地区では、住民による計画検討が行われ、平成17年10月に地区計画が決定された。 ・南部地区にある公園用地を整備するため、平成17年度に地区住民によるワークショップが実施され、策定された計画により、18年度に南部公園、19年度に中川公園が整備され、地元と維持管理に関し確認書が結ばれ地元の参画がなされた。 須釜川の河川整備に景観を重視した多自然型ブロックの施行を行った。 ①多自然型ブロック積工 L=36m A=54㎡	都市計画課 建設課
	佐野茶畑線の街路整備では、JR御殿場線を跨線する橋梁区間があり、アプローチ区間を含めて電線を地中化とした。	都市計画課	

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
2-1-3 ポイ捨てをなくそう	ポイ捨てに関する意識啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・広報すそのへ掲載 ・ポイ捨て防止看板の設置 を行った。 	環境防災課
		ペット飼い主のマナーについては <ul style="list-style-type: none"> ・広報すそのへの掲載 ・自治会へ回覧 ・狂犬病集合注射時の啓発 ・犬・猫の看板配布 を行った。 	環境防災課
	ごみ拾い運動の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ収集のない第5水曜日を、環境美化の日として、収集業者及び市職員等が協力し環境美化を目的とした活動を実施した。 平成22年度 クリーンアップ作戦参加者数 38名	環境防災課
		富士山の良好な自然環境を守り、日本の象徴としての富士山をいつまでも美しくすることを目的として登山口で一斉清掃を行い、富士山の恒常的美化思想啓蒙の普及を図っている。 平成22年度 富士山一斉清掃参加者数 87名	商工観光課
2-1-4 不法投棄をなくそう	不法投棄対策	<ul style="list-style-type: none"> ・不法投棄の未然防止を図るため、市内山間部を中心に啓発看板の設置や巡回パトロールを実施している。 ・シルバー人材センターによる巡回パトロールを実施するとともに、発見した不法投棄ごみの回収も行っている。 シルバー人材センター(5月～2月までの10ヶ月間実施 週2回)	美化センター
		<ul style="list-style-type: none"> ・広報すそのへ掲載 ・不法投棄防止看板の設置 を行った。 不法投棄苦情件数 138件/年(平成22年度)	環境防災課

2-2 緑の空間の創造

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
2-2-1 街に緑道を増やそう	道路緑化・整備・管理	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の構造基準に基づいて植樹帯が設置できる道路については街路樹など緑化を進めた。 ・自転車、歩行者のための安全空間の確保など緑化空間の確保が難しい状況にあるが、残空間の利用など緑化に配慮した整備を進めた。 	都市計画課
		シルバー人材センターや業者に依頼し、剪定、草取り及び、消毒を適宜行っている。 22年度より市民協働による草刈りを実施し、市民が水と緑に親しむまちづくりを進めている。 個人所有の樹木や生け垣が道路の通行に危険を及ぼさないように、適正な管理を市民に広報等で啓発している。	建設管理課
2-2-1 街に緑道を増やそう	遊歩道の整備・管理	(都)佐野茶畑線沿いの市有地を利用して、植栽をベンチ等の整備をして道路沿線の緑化に務めた。平成22年度末時点での道路の緑化路線15,050m	建設課
		地元自治会やPTA等の要望があった場合、調査し修繕工事等を行っている。危険箇所があった場合は、速やかに安全対策を行っている。	建設管理課

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
2-2-2 公園を増やそう	計画的な公園整備	<ul style="list-style-type: none"> ・土地区画整理事業で確保された伊豆島田地区内の2箇所の公園用地を身近な公園として整備するため、平成17年度において地元住民によるワークショップを行い、整備計画を作成した中川公園整備が19年度に完成し、南部公園同様、地元と維持管理確認書を締結した。 市民1人当たりの公園面積(公園面積ha/人口) ・18年 4.0㎡(21.22/52,439)(南部公園追加) ・19年 4.0㎡(21.48/54,281)(中川公園追加) ・20年 4.0㎡(21.48/54,377) ・21年 3.9㎡(21.48/54,561) ・22年 4.0㎡(21.48/54,267) 	都市計画課
	公園の維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園の安全点検は年2回専門業者に委託して行っている。 ・樹木の剪定や修繕工事などは市の管理業務となっている。 ・ワークショップにより完成した中川公園を昨年度の南部公園同様、地元と維持管理の確認書を締結した。 <p>現在ある中央公園、偕楽園、景ヶ島公園、アシタカツツジ園等は市が委託により管理している。</p> <p>公園の維持・管理を常態として市民活動で行ってはいないが、年数回の新潟県人会、佐野ずがに会をはじめ、ライオンズクラブ、明るい街づくりの会など約10ほどのボランティア団体が、それぞれ年1回程度中央公園の清掃奉仕活動を行っている。</p>	都市計画課 商工観光課
	緑化活動の支援	<p>緑化に関する市民への直接的な働きかけはしていないが、児童・生徒の学習活動を通して、「緑化」への意識高揚を図っている。学校環境の整備の中で、植物を栽培したりすることを通して「緑化」を意識することへつながっている。</p> <p>また、理科の授業などでも同様である。</p>	学校教育課
		<p>緑化活動の推進として17年度に(財)イオン環境財団設立15周年記念活動の植樹を利用し東小学校・中学校に植樹を行った。</p> <p>学校敷地内の緑化・花の栽培等に必要土・肥料・種等の支出</p> <p>18年度は開校した南小に(財)静岡県グリーンバンクより苗木をもらい学校施設周辺の緑化に努めた。</p>	教育総務課
		<p>10月と3月に市内の保育園・幼稚園・小・中学校・須山老人会・花の会等に種子、球根、緑花木を、グリーンバンクより配布した。</p> <p>裾野市花の会の活動支援(平成22年度補助金109千円)</p> <p>裾野市パノラマロードを花でいっぱいにする会への協力を行った。</p>	農林振興課

2-3 歴史的遺産の保全と啓蒙

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
2-3-1 歴史的遺産を保全しよう	歴史的遺産の調査・整備・管理	<ol style="list-style-type: none"> 1. 富士山や郷土の歴史や文化、人物に関する特別展等を開催すると共に、現地調査・資料調査を行い資料集としてまとめた。 2. 富士山須山口登山道に関する史跡や文化財、須山浅間神社などの調査を重ね、その特徴を地元や裾野市民に資料集としてまとめたり、探索会の折に現地や講話などによって紹介した。 	富士山資料館
		<ul style="list-style-type: none"> ・深良地区青少年育成連絡会によるクリーンアップ作戦の実施 小中学校の児童、生徒及びその保護者約100人参加、120kgのごみを収集 ・郷土資料館にて、深良用水の歴史資料、位置・構造の模型、写真等を展示。 見学者925人、開館日数54日 ・歴史探訪会の開催。 ・資料の収集を行った。 	深良支所
2-3-2 歴史的遺産を学ぼう	歴史的遺産の啓発	<ol style="list-style-type: none"> 2. 富士山をさまざまな角度でとらえた「富士百景写真展」や、市民参加による「富士山ナイスアングル写真展」、「ふるさと芸術展」などの写真展や絵画展を継続して開催した。また、市内小学5年生を対象とした「子どもたちの富士山絵画展」を実施することで、富士山を観察する目の育成を行った。 	富士山資料館

環境目標3 みんなで取り組み よりきれいな水と空気を未来につなぐまち

3-1 ごみ減量の実践

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
		<ul style="list-style-type: none"> 平成18年度に一般廃棄物処理基本計画の見直しを行った。 人口推計の見直し、地球温暖化やダイオキシン類問題の対応、また、排出量の削減はもちろんのこと、国・県と連携し、リデュース(排出抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再利用)の3Rを推進している。 ごみ排出量合計 17,599t/年(平成21年度) 家庭系ごみ1人1日排出量 645g/人・年(平成21年度) 事業系ごみ排出量 4,747t/年(平成21年度) 容器包装廃棄物の排出量 2,452t/年(平成21年度) 環境大会への参加者数 280人/年(平成21年度) 	環境防災課 美化センター
	ごみの適正処理	<ul style="list-style-type: none"> 処分場内に搬入されたごみの埋立てや、浸出水の処理については、公害を出さないよう適切な管理を実施している。 最終処分量(埋立量+客土) 2,064m³/年(平成22年度) 	美化センター
3-1-2 リサイクルを 推進しよう	分別収集の推進	<ul style="list-style-type: none"> 資源ごみは、古紙類、ビン類、飲料缶を含む金属類、プラスチック製容器包装、ペットボトル、乾電池、牛乳パック類等に分別収集し、リサイクルを推進している。 	美化センター
		<ul style="list-style-type: none"> 広報すそのへ掲載 自治会へ回覧 を行った。 	環境防災課

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
3-1-2 リサイクルを 推進しよう	有機ごみのリサイクル	市内に住居を有するもしくは市内に店舗、事業所、事務所等を有するものにつき、以下の処理機器の購入に対して補助金の交付を行った。 ① ぼかし容器・・・1世帯2個を限度 3年に1回申請可 購入費の1/2以内 限度額3,000円 (平成22年度実績5件) ② コンポスト・・・1世帯1個を限度 3年に1回申請可 購入費の1/2以内 限度額3,000円 (平成22年度実績14件) ③ 一般家庭用生ごみ処理機・・・1世帯に1機 5年に1回申請可 購入費の1/2以内 限度額20,000円 (平成22年度実績14件) ④ 事業用生ごみ処理機・・・1事業所に1機 申請は1回のみ 購入費の1/3以内 限度額1,000,000円 (平成22年度実績 0件) 生ごみ処理機器等設置基数(累計) 1, 924件	環境防災課
	リサイクルの意識啓発	・広報すそのへ掲載 ・自治会へ回覧 を行った。	環境防災課
3-1-2 リサイクルを 推進しよう	グリーン購入	・市役所において職員が使用する文具(共通消耗品)を可能な限りエコマークなどの環境ラベルに適合した商品とし、環境への負担を軽減している。 ・市役所において職員が使用するコピー用紙をグリーン購入法適合商品(総合評価値80以上(昨年度までの値70から引上げ))として、環境の負担を軽減している。	総務管財課

3-2 生活環境の保全

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
3-2-1 水をきれいに しよう	生活排水処理施設の 整備・管理	(平成22年度実績) (平成22年度末累計) 整備面積 2.3ha 320.2ha 全体比率 31.2%(320.2÷1026.5ha) 水洗化率 4.9% 92.5% 管布設延長 3,442m 83,304m マンホール総数 110基 3,927基 汚水枘設置総数 163箇所 5,719箇所 排水設備工事融資斡旋件数 1件 94件 未接続世帯への訪問 161箇所	下水道課
		生活排水処理については、処理施設場の誘致場所の決定には到っていない。現在、市街化区域においては下水道事業が進められており、まずは下水道整備を充実させることが先であると考えている。調整区域においては、順次で後の整備となってくると考えられるが、それまでは、合併処理層を設置すれば補助金をもえるので、それらで対応しながら整備を進めている。	農林振興課
		下水道認可地域外に対して、合併浄化槽の普及を促進するため裾野市合併処理浄化槽設置整備事業補助金を交付している。 ① 5人槽 補助額:177,000円 (平成22年度実績 新設:39件 入替:1件) ② 6~7人槽 補助額:204,000円 (平成22年度実績 新設:23件 入替:0件) ③ 8~10人槽 補助額:258,000円 (平成22年度実績 新設:7件 入替:1件) ※汲取り及び単独浄化槽から合併浄化槽へ入替の場合は上記金額に30,000円上乗せ。	環境防災課
		・平成18年度中に一般廃棄物処理基本計画の見直しを行なった。 ・人口推計の見直し、地球温暖化やダイオキシン類問題の対応、また、排出量の削減はもちろんのこと、国・県と連携し、リデュース(排出抑制)、リユース(再利用)、リサイクル(再利用)の3Rを推進している。	環境防災課

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
3-2-1 水をきれい にしよう	生活排水対策	県狩野川流域浄化センター(主催)と連携し8月22日に実施された見学会の募集を広報紙でおこなった。	下水道課
		「家庭からの排水をきれいにし、川をきれいにしよう」をテーマとし、家庭の排水の浄化や市内の川と配水について、活動報告としてパネルを作成し、環境大会や消費生活展等へ参加した。 活動: ・親子水生生物調査での指導。 ・市内水辺(湧水・河川等)の視察研修会、市外の水環境視察研修 ・環境大会参加のためのパネル作成・展示。 ・家庭排水浄化の意識啓発を図るため、生涯学習センターにパネル展示。	環境防災課
3-2-1 水をきれい にしよう	事業排水対策	豚には予防注射、蜜蜂・馬・養鶏には検査により家畜伝染病予防の推進をしている。 家畜排泄物法(水質汚濁法)により浄化装置を取り付けて他市へ一部を除き移設している。	農林振興課
		・汚水を排出する事業所について、公害防止協定を締結している。 (H23.3.31現在22事業所) ・協定締結事業所について、年3回水質調査を行った。 (協定値超過件数:平成21年度4件、平成22年度0件) ・水質汚濁防止法に基づく届出を受理し、県に進達した。 (平成22年度届出受理件数13件) ・県による事業所の水質検査に立会った。	環境防災課
	水質モニタリング・水質事故対策	国や県の関係機関、近隣市町等と連絡を取りあい、迅速な事故処理を行っている。以下の機関に連絡を行っている。 ①沼津河川国道事務所 河川管理課 ②静岡県沼津土木事務所 管理課 ③水質事故の影響を受けると予測される市町 水質汚濁苦情件数 4件/年(平成22年度) 河川BOD環境基準達成状況(達成地点/測定地点) 5/5	環境防災課
	周辺自治体との連携	・河川水質・有機塩素系溶剤・水生生物調査等を行い広報紙でも河川水質調査、ごみや生活排水関係など掲載し、川を汚さないよう呼びかけた。 ①河川水質調査 ・市内12箇所年4回(5月・8月・11月・2月) ②有機塩素系溶剤調査 ・五市四町に合わせて年2回(8月・2月) ③ゴルフ場農薬調査 ・年1回(7月)市内5ゴルフ場 ④親子水生生物調査 年1回(8月7日) ⑤企業排水調査 年3回 22事業所 ⑥狩水協による河川清掃 年1回(6月) ⑦環境大会での河川美化ポスター・標語の展示	環境防災課
	有害化学物質対策	・浸出水処理施設により、放流水の適正管理を行い、公害が発生しないように務めている。	美化センター
・有機塩素系溶剤の調査を行った(井戸水14箇所 14検体、河川9箇所 9検体、湧水4箇所 4検体、クリーニング1箇所 2検体、事業所6箇所 10検体) ・ゴルフ場の農薬検査を年1回行っている(5ゴルフ場)H15からの基準値超過件数0 ・県によるゴルフ場農薬調査に立ち会った。		環境防災課	

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
3-2-2 水を大切にしよう	節水	水道週間(6月1日～7日)において、市の広報紙やのぼり旗等で節水を呼びかけを行った。 また小学校の社会科見学の一環で、配水地等の水道施設見学を実施し、水の大切さの啓発活動を行った。 市民1人1日平均有収水量 325.40/人・日(H22)	上水道課
	地下水の涵養・保全	・土地利用事業において地下水涵養の指導・推進を行った。 ・地下水を利用する企業等で組織する市地下水採取者協議会の運営を事務局として行い、市内地域における必要用水の安定供給の確保及び水資源の涵養、地下水の適正かつ合理的な採取を啓発した(総会1回、会議1回、研修会1回)。 ・御殿場市、小山町と共に東富士地下水利用対策協議会を組織し地下水利用についての意見交換及び合同の湧水量調査をそれぞれ2回行い、広域的な地下水涵養・保全に寄与している。 ・県が主催している「黄瀬川流域地下水利用に関する打合せ会」(計2回)に出席した。	企画政策課
3-2-3 空気をきれいにしよう	自動車排気ガス対策	バス交通 (1)既存路線の維持存続 広域的幹線的路線については、国庫補助路線として、国、県による補助を行っている。国庫補助に該当しない路線のうち2路線(十里木線・須山線2系統)については、路線ごとの収支欠損額の2分の1を市で補助を行った。 (2)交通空白地帯の解消と新規路線の開設 住民要望が高く、また岩波駅周辺の混雑緩和を目的に平成17年度から、岩波駅と市北西部地域を結ぶ、市の自主運行バス事業を開始した。 市内バス路線の再編を行うため、平成20年度から、裾野駅を起点とする実証実験(3路線)を開始し、平成22年度に本格運行に移行した。 鉄道交通 (1)御殿場線の輸送力増強 御殿場線沿線市町で構成する御殿場線輸送力増強促進連盟で、御殿場線の輸送力増強や利便性向上について関連機関に陳情を行っている(毎年)。	企画政策課
	事業所排気ガス対策	・ばい煙等を排出する事業所について、公害防止協定を締結している。 ・大気汚染防止法、ダイオキシン類対策特別措置法に該当する施設について、届出を受け県に進達した。(平成22年度大気関係届出受理件数20件、ダイオキシン関係届出受理件数2件) ・県による施設調査に立ち会った。	環境防災課
	大気モニタリング	・文化センターにおいて、大気の常時観測を行っている。 大気汚染苦情件数 24件/年(平成22年度) 悪臭苦情件数 6件/年(平成22年度)	環境防災課
	有害化学物質対策	・ごみ焼却施設及び粗大ゴミ処理施設の老朽化に伴う修繕や工事を行なっている。 ・ごみ焼却施設の精密機能検査・定期点検を行っている。 ・施設の排ガス(年12回)・ダイオキシン(年2回)の測定を行い、安定した施設の運転管理を行っている。	美化センター
3-2-3 空気をきれいにしよう	有害化学物質対策	市内4箇所(運動公園、市役所、向田小、南小)において、年4回ダイオキシン類の測定を行った。 (平成22年度) ダイオキシン類濃度(運動公園) 0.006pg-TEQ/g ダイオキシン類濃度(裾野市役所) 0.019pg-TEQ/g ダイオキシン類濃度(向田小) 0.016pg-TEQ/g ダイオキシン類濃度(南小) 0.012pg-TEQ/g	環境防災課
	屋外焼却対策	火災予防条例第25条「たき火」及び第45条「火災と紛らわしい届出」に基づき、屋外焼却に対する指導を実施した。 火災と紛らわしい届出 平成22年度実績 72件 火災と紛らわしいたき火等の通報に対する現場確認指導 平成22年度実績 13件	消防総務課
		・通報により現地にて指導を行った ・発生防止のため広報すそのへ掲載、自治会へ回覧を行った。	環境防災課

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
3-2-4 住みよい静かな環境をつくらう	騒音・振動対策	<ul style="list-style-type: none"> ・開発行為では、技術基準に従い、緑地の確保など適切な指導を行った。(22年度開発行為面積35,146㎡) ・既存市道に関する騒音、振動対策の植樹帯の設置は行っていない。 	都市計画課
		<ul style="list-style-type: none"> ・狭隘道路等の側溝改修等にはスリットタイプの側溝を採用し車両等走行時の騒音防止対策をおこなう。 ・都市計画街路には、道路の移動円滑化ガイドラインに基づき計画をおこない、道路段差の解消、排水性舗装、植樹帯などを設けていく。 	建設課
		<ul style="list-style-type: none"> ・騒音・振動の苦情に対し、現場の調査をおこなった。 ・国道246号における騒音を測定し、国土交通省に防音壁の参考資料として提出。 ・騒音規制法、振動規制法に基づく届出の受理をおこなっている。(平成22年度騒音届出受理件数14件、振動届出受理件数6件) <p>騒音苦情件数10件(平成22年度) 振動苦情件数 0件(平成22年度)</p>	環境防災課

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
4-1-2 省エネルギーな生活をしよう	環境にやさしい企業育成	すそのテクニカルに助成を行い、ゼロエミッションの調査・研究を行っている。	商工観光課
		過去ISO14001取得支援の依頼はありませんでした。企業作成の実績書を情報公開コーナーにて公開しています。実際の取得には、専門知識が費用な為、市役所単独での取得支援は困難であると考えている。 市内ISO14001認証取得事業所数 21件(平成22年度)	環境防災課

4-2 森林資源循環の確保

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
4-2-1 林業の振興を推進しよう	林業経営の強化	・森林組合に対し運営補助や安定的間伐事業の委託をすることで経営の安定化を図り、組合を通し従業者の養成、確保を実施している。 ・高性能林業機械を、国庫及び県費の補助を受けて購入しており、作業の合理化を図っている。 ・富士流域林業活性化センター会員として、林業講習会や地域材利用促進事業に対し支援をしている。	農林振興課
	間伐促進と間伐材利用	森林組合により間伐材はできるだけ搬出し、富士木材センターに卸すようにしている。また従来から、間伐材を利用して土砂流出防止柵、作業路等にも利用しながら有効利用を図っている。 間伐材利用量 277m ³ /年(平成22年度)	農林振興課
4-2-2 森林の保全をしよう	森林の現状分析	市内の森林については、森林組合の間伐事業をととして現状の把握を行っている。 現在、治山治水目的の間伐を年間200haを目標として行っているが、間伐単価の上昇により、現在の予算では160haの間伐が上限となっている。	農林振興課
	森林・里山等の整備・保全	千福が丘小学校・富岡第二小学校・須山小学校に市より各校28,000円補助を実施し、花壇・畑の手入れ、種蒔き、球根植えをし、植物を育てた。 緑の羽募金を年2回実施している(春は市内小中学校及び市役所庁舎内、秋は市役所庁舎内、外部施設内、企業での募金呼びかけを行った)。	農林振興課

4-3 環境教育の推進

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
4-3-1 環境教育に取り組もう	あらゆる段階での環境教育	ビオトープの試行として須山小学校に水中生物観察池がある。今後環境教育の推進として他校へも順次設置を行いたい。 新設校の南小学校に太陽光発電施設を設置し、発電量表示装置を理科や総合学習の事業に活用し児童の環境学習効果の高揚に役立て、あわせて保護者や来校者への環境意識の広がりを図る。 行事等で来校する保護者、地区住民には現在の発電量、CO2削減量をパネルで確認する事により、新エネルギーについて考える機会を持つことが出来た。 尚、太陽光については、平成22年度に富岡中体育館・須山小校舎に設置した。	教育総務課

具体的な取組	取組項目	平成22年度実施状況	担当課
4-3-1 環境教育に 取り組もう	あらゆる段階での環境教育	<ul style="list-style-type: none"> ・「環境教育」という特設された科目としてではないが、教科領域等において、特に社会科・理科・総合的な学習の時間において、市内全小・中学校において環境保全や自然保護などにかかわる内容の学習を行っている。 ・環境美化活動を、すべての小・中学校で行っている。 アルミ缶回収活動に取り組んでいる学校は、小学校(9)、中学校(4)である。 ・春・夏に行なわれる地域一斉河川清掃について学校便り等を通して家族で参加するよう働きかけている。 ・月1回クリーンデー、年間4回校内グリーンクリーン活動、全学級が年間2回地下道清掃、月1回縦割り集団による校内美化活動(週1回の学校あり)、三校(小・中)連携地域美化活動、縦割りによる全児童職員草取り活動、生徒会主催の地域ゴミ拾い活動、生徒とPTAによる資源回収活動、ごみゼロ運動、地域美化奉仕活動、青少年健全育成協議会の地域クリーンアップ作戦に参加 等々 学校ビオトープの設置を検討している学校がある。 学校給食用牛乳パックの回収に取り組んでいる。 	学校教育課
		園児が自然と親しむための遠足や苗から野菜を育てるなどの園外保育を実施した。	子ども教育課
4-3-1 環境教育に 取り組もう	環境講座等の開設	県、静岡県地球温暖化防止活動推進センターと協力しアース・キッズチャレンジを実施し、千福が丘小学校4年生の児童(23名)が地球温暖化防止活動に取り組んだ。	環境防災課
		1. 富士山や愛鷹山に生息する動植物等の観察会を継続的に実施。環境が私たちの生活とどのような関係があるか紹介している。自然環境の悪化が私たちの生活にどのような影響があるか講座の中で触れたり、環境をテーマにした出前講座でも紹介している。 富士山資料館講座参加者数223人(平成22年度)	富士山資料館
		・ボランティア登録数 団体・・・56団体(3,353人)、個人・・・304人 この内、環境に関する目的・活動を実践している団体は 6団体(1,215人)	地域振興課
4-3-2 環境情報の 公表を充実 しよう	環境情報の充実	1. 富士山で観測される情報を得るため、富士山測候所有効利用検討委員会に継続的に参加し、山頂での研究について情報をえている。 2. 富士山を中心とした環境情報を得るため、近隣の博物館関係6施設で、富士山ネットワークを組織し、近隣の情報を交換している。また、富士砂防事務所や民間の研究機関、や大学とも連携し、富士山情報や防災の観測体制、防災に関する情報も収集している。 富士山資料館入館者数9,665人(平成22年度)	富士山資料館
4-3-2 環境情報の 公表を充実 しよう	環境情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・広報で浄化槽や太陽光発電、生ごみ処理機等の補助制度の周知やペットの適正飼育、省エネの推進等を組んで掲載した。 ・HPにおいてもごみの分別辞典や少エネルギービジョン(概要版)等を掲載し、環境情報の充実を図っている。 	環境防災課
		1. 富士山で観測される情報を得るため、富士山測候所有効利用検討委員会に継続的に参加し、山頂での研究について情報をえている。 2. 富士山を中心とした環境情報を得るため、近隣の博物館関係6施設で、富士山ネットワークを組織し、近隣の情報を交換している。また、富士砂防事務所や民間の研究機関、や大学とも連携し、富士山情報や防災の観測体制、防災に関する情報も収集している。 富士山資料館入館者数9,665人(平成22年度)	富士山資料館
		・地球温暖化、大気汚染など地球規模で環境が悪化するなか、他の分野の蔵書とのバランスを考慮しつつ、環境図書の充実を図っている。 自然科学系蔵書数 平成21年度 7,424冊 平成22年度 7,704冊	鈴木図書館
	環境基本計画の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページに概要版を掲載。(平成17年度に掲載済み) ・掲載内容の更新をおこなった。 ・環境市民会議を開催し、環境施策評価の報告を行った。 	環境防災課